



- 公民館活動
- 生涯学習
- 文化振興
- 学校
- スポーツ

～地域で学び、活動する皆さんを応援します～

北秋田市教育委員会



学びの広場

豊かな自然の中でマタギの弟子入り体験!

～マタギの地恵体験学習会～

北秋田市が発祥の地とされているマタギ文化を学びながら自然体験を行う「マタギの地恵体験学習会」が7月30日から2泊3日の日程で開催され、抽選で選ばれた市内の小学生20人が体験活動を行いました。この事業は、自然体験を通して、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心などを育むことを目的に開催しています。

参加した児童は、マタギの文化を学ぶために鶏を解体して、きりたんぼ鍋作りに挑戦したり、釣りやカジカ捕りで北秋田市の自然を堪能しました。



▲カジカ捕りに挑戦する参加者たち
また、植樹活動では、育てることの大切さを学ぶなど、3日間の体験のなかで、いのちの大切さに触れながら自然との共生を学びました。

こ・こ・ろをこめて♪竹あかりを灯そう

～浜辺の歌音楽館&米内沢小学校プロジェクト～

「浜辺の歌音楽館」創立33周年を前に「竹あかりを灯そうプロジェクト」が7月22日に開催されました。このプロジェクトは、米内沢小学校の6年生が総合学習のなかで「郷土の良さを学ぶ」をテーマに取り組み、竹あかりで地域を元気にしたいと企画したものです。

当日は、浜辺の歌音楽館少年少女合唱団によるオープニングで幕を開け、全国47都道府県の竹あかり点灯イベントに合わせて、40本の竹筒にあかりを灯しました。



▲竹あかりの点灯に彩りを添えたコーラス
この日は、児童と地域の人たちが交流しながら、会場の幻想的な世界を楽しみました。



祝 伊勢堂岱遺跡 世界文化遺産登録決定

**佐藤正孝さんが
県学校保健表彰を受賞**

佐藤正孝さん（松葉町・81歳）が、このたび令和3年度秋田県学校保健表彰を受賞しました。

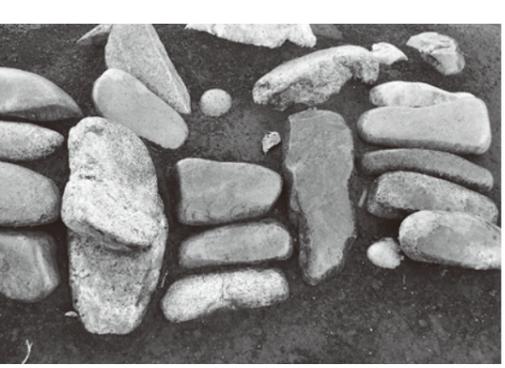
佐藤さんは、昭和60年から公立合川高等学校の学校歯科医を務め、以後市内小・中学校の学校歯科医を歴任され、歯科検診や口腔保健指導にあたられました。

今回の受賞は、学校・地域とともに、児童生徒の健康づくりに尽力された功績などが評価されたものです。

伊勢堂岱遺跡メモリーズ

発掘 学芸員コラム vol.7
世界遺産物語!

詳しい藤本幸雄先生（当時伊勢堂岱遺跡調査検討委員）にお願いし、4000点近くある石を1点ずつ調べていただきました。その結果、安山岩・ひん岩・凝灰岩など様々な岩石の種類で環状列石が作られていることがわかりました。それらの石は米代川や、その支流の小猿部川、湯車川で採取できるもので、石の大きさからも、縄文人は環状列石を作るために、遺跡から5キロメートル圏内から石を運んできたことも明らかになりました。



▲保存処理直後の環状列石の石

また、石をそのままの状態に公開すると石に雨が染み込み、凍結融解で石が壊れる原因にもなります。このことから、伊勢堂岱の石の表面に撥水剤や特注の強化剤を塗って保護しているのです。そして、石の周りには黒土と薬剤（マグネシウム）を混ぜた特別な土で固め、石が動かないように固定しています。この特別な土は、薬剤の配合の異なるサンプルを作成し、数年間野ざらしにした状態で、もっとも劣化が少ない配合を選び使用しています。さらに、積雪前に特殊な保護シートを覆い、雪から守るようにしています。気温が1度以下になると、石が凍結して壊れる可能性がありますが、保護シートによって温度が保たれます。そのため、遺跡の公開は4月下旬から10月31日までの期間に限定しています。

北秋田市学芸員 (完)

伊勢堂岱遺跡は現在、公園のように整備されて自由に見学することができます。また、遺跡近くには伊勢堂縄文館があり、出土品や遺跡の解説、映像を見学することができます。遺跡には環状列石（ストーンサークル）の実物が発掘されたままの状態で見られますが、公開するためには、様々な研究の積み重ね、石の保存方法を確立し可能になりました。今回は、遺跡の石の「保存処理」について紹介します。

環状列石は、平成7年の発見の時から様々な石の種類があるといわれていました。石は河川で見つかるような丸い石です。県内で岩石研究に



▲「伊勢堂岱遺跡」の最新の航空写真（※6月撮影）

生物が表面に付着します。この地衣類は、長年放置すると石に悪影響があるので、専門家の意見を聞いたうえで除去することになりました。複数の薬剤の中から最適なものを選び、地衣類を取り除き、現在は石の色がわかるくらいきれいな状態に保たれています。きれいな状態に保たれると、単に川から運んできただけでなく、石を焼いて赤くしたものを並べていることもわかりました。同時期の遺跡の大湯環状列石（鹿角市）では緑色の石を使って環状列石がつけられていますが、伊勢堂岱では赤、青、白、黄色などともカラフルです。

また、石をそのままの状態に公開すると石に雨が染み込み、凍結融解で石が壊れる原因にもなります。このことから、伊勢堂岱の石の表面に撥水剤や特注の強化剤を塗って保護しているのです。そして、石の周りには黒土と薬剤（マグネシウム）を混ぜた特別な土で固め、石が動かないように固定しています。この特別な土は、薬剤の配合の異なるサンプルを作成し、数年間野ざらしにした状態で、もっとも劣化が少ない配合を選び使用しています。さらに、積雪前に特殊な保護シートを覆い、雪から守るようにしています。気温が1度以下になると、石が凍結して壊れる可能性がありますが、保護シートによって温度が保たれます。そのため、遺跡の公開は4月下旬から10月31日までの期間に限定しています。

伊勢堂岱遺跡は文化庁が指定する史跡で、遺跡の中で木を1本伐採するにも「現状変更許可」の申請が必要です。こうして、遺跡は未来まで保護継承されるのです。

北秋田市学芸員 (完)